



山武地域の生育状況

7月の日別平均気温は7月11日頃を除き、平年よりも高温で推移しました。また、晴天日が続いたため、日照時間も多く推移しました。幼穂形成期から出穂期に至るまでの日数は、平年より4日ほど早まりました。今後の登熟期間も、平年以上の高温が見込まれます。収穫の早まりに備えて収穫適期判定を正確に行い、刈遅れを防ぎましょう。なお、収穫適期は、ほ場内で帯緑色籾歩合が15%以下になったときで、実際のほ場を確認し判断します。

現在、管内では7月の高温により紋枯病の発生が多く見られます。また、斑点米カメムシ類も多く発生していますので、多発生しているほ場では農薬使用基準の収穫前日数を確認し、適宜防除を実施しましょう。

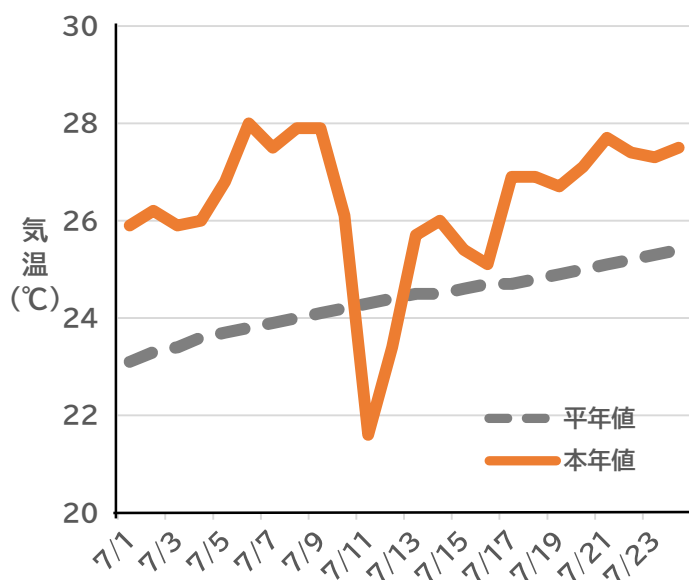


図1 日平均気温の推移(アメダス、横芝光)

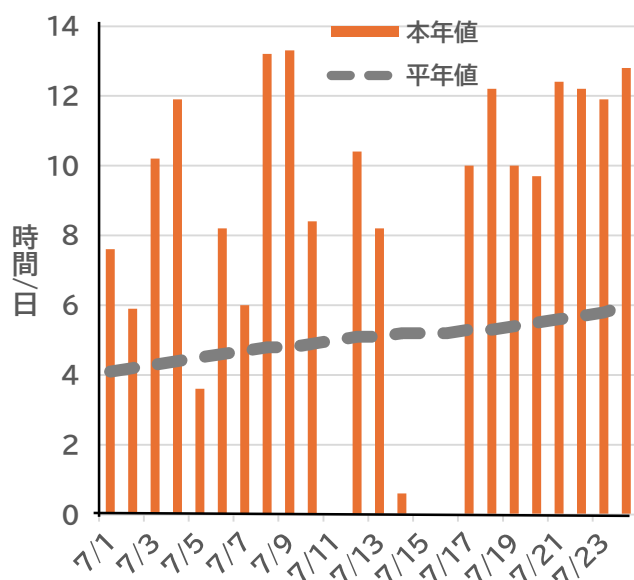


図2 日照時間の推移(アメダス、横芝光)

表1 水稻生育予測システム「でるた TM」による収穫日予測(7月25日現在)*

移植日	品種			
	ふさおとめ	ふさがね	コシヒカリ	粒すけ
4/20	8/10	8/15	8/24	8/23
5/1	8/16	8/21	8/29	8/29
5/15	8/23	8/28	9/6	9/6

* 予測日は水稻生育予測システム「でるた TM」により、アメダス横芝光のデータを用いて予測しています。移植時の苗の条件、ほ場の条件、予測を行った日以降の気象条件により誤差が出る場合があります。
高温により上記の日にちより、3～5日収穫日が早まることに備えましょう。

◇高温・乾燥による玄米の品質低下に注意しましょう。

7月も終わり、いよいよ水稻の収穫シーズンを迎えます。近年は夏が非常に暑く、高温による玄米品質の低下が問題となっています。今年は梅雨の期間に雨が少なく高温が続きました。今後も残暑が厳しいことが予想されますので、玄米の品質低下に注意して収穫までの管理を行いましょう。高温・乾燥による玄米品質の低下には下記のようなものがあります。



●白未熟粒:一部～全部が白く濁った玄米

登熟期間中の高温、乾燥、籾数過剰等によって胚乳へのでんぷんの蓄積不良が起こり発生します。発生抑制には高温、乾燥等のストレスの軽減が重要です。



●褐色粒:薄い茶色～褐色に着色した玄米

籾内に原因菌が侵入・感染することで発生し、登熟期の高温・乾燥や、倒伏、刈り遅れにより発生が助長されます。主な原因菌は、枯れたイネ科雑草や稲株の枯れ上がった下葉に潜みます。対策は①稲体の過度な乾燥による下葉の枯れ上がりの抑制②出穂直前の草刈りの不実施③除草剤による除草は出穂1ヶ月前までに実施により発生を軽減できます。



●胴割粒:胚乳に亀裂が入っている玄米

開花後20日間の高温や、早期落水や干ばつによる枯れ上がりで発生が増加します。また、刈り遅れや収穫後の急激な乾燥でも発生します。

※画像の出典:全農千葉県本部・千葉県 令和6年発行「高温に負けない稲づくり」

○収穫までに気をつけること

●ほ場の乾かしすぎに注意＝登熟期間中は高温・少雨で土壌が乾燥しやすいため、長く晴天が続くそうなときは水を入れてほ場の乾かしすぎに注意しましょう。また、収穫前の落水が早いと白未熟粒、褐色粒、胴割粒の発生が増加します。今年のように梅雨期間中の雨が少ない年は中干しがしっかりできており、平年より落水が遅くても機械作業に支障がない程度に田面が固まっていると思われます。ほ場の状態を考慮し、収穫前の落水は出穂後30日以降にしましょう。

●台風通過後の高温風に注意＝台風通過後などに起きるフェーン現象は乾燥・高温・強風で稲に大きなストレスです。フェーン現象が予想される場合はほ場に水を溜めて被害の軽減に努めましょう。

●適期収穫に努めましょう＝褐色粒や胴割粒は刈り遅れによって発生が増えるため、適期収穫に努めましょう。高温・多照条件では登熟の早まりにより収穫適期が早まる場合があります。収穫前には帯緑色籾歩合を確認し、収穫時期を決めましょう。

生育調査結果(出穂後 10 日時点)

*本年値の()内は平年値との差を示しています。

*葉色は、カラスケール(CS)による数値を表しています。(調査は葉色計(SPAD)を用いています。)

コシヒカリ(東金市)

移植日	年次	幼穂 形成期	出穂期	稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/㎡)	葉色(CS*値)
4/26	本年	6/25	7/17	87.9 (99%)	19.8 (99%)	285.6 (76%)	4.4 (99%)
4/28	前年	6/23	7/16	86.4	22.3	398.0	4.3

ふさこがね(山武市)

移植日	年次	幼穂 形成期	出穂期	稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/㎡)	葉色(CS*値)
5/3	本年	6/21	7/13	85.0 (105%)	20.5 (106%)	489.5 (112%)	4.9 (102%)
5/3	前年	6/25	7/13	81.2	19.7	418.2	5.0

ふさおとめ(山武市)

移植日	年次	幼穂 形成期	出穂期	稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/㎡)	葉色(CS*値)
5/2	本年	6/22	7/12	75.4 (98%)	19.3 (103%)	392.0 (81%)	4.7 (96%)
4/30	前年	6/17	7/10	79.2	19.9	470	4.6

アキヒカリ(山武市)

移植日	年次	幼穂 形成期	出穂期	稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/㎡)	葉色(CS*値)
4/23	本年	6/16	7/7	85.6 (109%)	18.3 (103%)	557.7 (125%)	5.2 (102%)
4/25	前年	6/14	7/4	77.8	17.7	454	5.2

農林総合研究センター 成東育成地 による生育調査結果

*調査は全て山武市で行われています。

*本年値の()内は平年値(「コシヒカリ」「ふさこがね」「ふさおとめ」は過去 10 年、4月移植「粒すけ」は過去6年、5月移植「粒すけ」は過去5年)との差を示しています。

*出穂時の葉色は、カラスケールによる数値を表しています。(調査は葉色計(SPAD)を用いています。)

品種・移植日	年次	幼穂形成期	出穂期	出穂期時の葉色	成熟期予測
コシヒカリ 4/25移植	本年	6/22 (早 1 日)	7/15 (早 3 日)	4.3 (97%)	8/22 (早 3 日)
	前年	6/22	7/9	4.5	8/20
ふさこがね 4/25移植	本年	6/21 (遅 5 日)	7/10 (早 2 日)	4.4 (90%)	8/16 (早 2 日)
	前年	6/16	7/9	4.9	8/13
ふさおとめ 4/25移植	本年	6/18 (遅 3 日)	7/9 (±0 日)	4.1 (87%)	8/11 (±0 日)
	前年	6/14	7/6	4.6	8/8
粒すけ 4/25移植	本年	6/22 (早 1 日)	7/15 (早 3 日)	4.4 (95%)	8/22 (早 3 日)
	前年	6/22	7/14	4.5	8/20
粒すけ 5/15移植	本年	7/6 (遅 1 日)	— (未出穂)	— (未出穂)	— (未出穂)
	前年	7/2	7/25	4.5	9/1